

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.134) 2026/4/17

目次

1. 第52回大会について
2. 第3回理事会報告
3. 定例研究会の報告 (関東)
4. 定例研究会の報告 (関西)
5. 看護・ケア研究部会告知
6. 渉外・国際交流活動の報告／告知
7. シンポジウム情報等のメール配信・学会ホームページ掲載希望について
8. 編集後記

---

1. 第52回大会について

第52回大会は、摂南大学現代社会学部（寝屋川キャンパス3号館）で開催いたします。開催日時は、2026年6月13日（土）・14日（日）です。大会テーマは「ライフの多様性に関わられた保健医療社会学をめざして—ビッグデータ／研究支援／市民科学」としました。今回は、このテーマの趣旨に鑑み、市民公開RTDを土曜日に、大会開催校企画RTDを日曜日に開催します。市民公開RTDでご協力いただく関係各位に感謝いたします。

大会は、対面で開催される9部会、5つのRTDのほか、例年通り、大会長講演、教育講演（この2つはオンデマンド配信されます）とシンポジウム（対面）で構成されます。大会ホームページ (<https://jshms-conference.jp/>) には、これらすべての演題名と演者名がすでに公開されていますので、どうぞご覧になってください。このニューズレターでは、「ホームページ未公開情報」(1、2、4、6、8、9)を中心に、最新情報を箇条書きの形で合計9点、記載いたしますので、どうぞご活用下さい。

- (1) 『抄録集』（『保健医療社会学論集・特別号』）は、5月20日前後に発行予定となっております。ただし、『抄録集』掲載情報は、2月末日時点の情報になりますので、最新の情報は大会ホームページでご確認ください。
- (2) 上記に関連して、2026年4月に所属変更なさった登壇者の方は、登壇時に最新の所属にかかわる情報提供を報告の中で（なるべく冒頭で）なさって下さい。なお、部会やRTDでの報告参考資料を掲載&ダウンロードできる「Google Drive」を開催1週間前までには準備できる見込みです。準備でき次第、会員一斉メールでご案内いたしますので、ご活用ください。
- (3) 4月8日より、「大会参加受付」を開始しております。6月7日（日）までに、参加申込をホームページ上からなさって下さい。この事前申込にあたっては、郵貯口座への送金での参加費の払い込みもできるようにしてあります。当日受付は、クレジットカードのみになりますので、ご注意ください。

- (4) 今年は、事前に参加申込して下さった方々に関しては、「ネームカード」を印字し、3階の総合受付脇に配置しておきます。ただし、領収書が必要な場合は、システムから自力で印刷なさって下さい。
- (5) 託児に関しては、ホームページ公開のとおり（「会場・参加方法案内」の下の方です。具体的には <https://jshms-conference.jp/venue.html> の下の方です）、2週間前の5月29日（金）17時を申込期限として、ご希望を承っております。1枠（だいたい3時間で1枠としました）につき、1100円（税込み&保険料込み）を自己負担していただきます。「0歳6ヶ月から小学校低学年までのお子様」をお預かりいたします。奮ってご利用下さい。
- (6) 今頃で申し訳ありません。「書籍販売ブース」を開設します（無料の予定）。出版社の方からのお申し出の期限は、5月13日（水曜日）とします。この部分、ホームページ上にまだ情報が記載されておきませんが、4月20日前後には情報掲載の予定ですので、自著の版元やお知り合いの出版社の方に会員各氏の方からお声がけいただければ、幸いです。お申込みにあたっては、大会事務局メール（[52nd@jshms-conference.jp](mailto:52nd@jshms-conference.jp)）宛に、「出版社名、担当者名、連絡用の電話番号、メールアドレス」を書いてご連絡下さるよう、ご伝言等いただければ、幸いです。「書籍販売ブース」利用社に限り、事前に関連資材の宅配便送付を受け付けます。まずは、ご希望がある旨ご連絡いただく形でも結構です。よろしく願います。
- (7) 冒頭にも書きましたが、RTDのうち、6月13日土曜日に開催される2つについて、企画者・登壇者の方のご理解を得て、「市民公開」といたします。市民の方は、この部分の企画に関しては、無料で事前予約なく参加できますので、会員の方で、この2つのRTD（「当事者知と専門知の考察」および「デジタルヘルスの社会学」）に関心がありそうな市民の方にお知り合いがいらっしゃる場合には、情報提供等していただければ、幸いです。これについては、すでに大会ホームページ上で「市民の方へ」というPDFファイルの提供を開始しています（<https://jshms-conference.jp/>の真ん中ぐらいにリンクがあります）。なお、市民向け情報を裏面にすり込んだ「チラシ（第2版）」を、『抄録集』と一緒に発送する準備を進めています。こちらも適宜ご活用いただければ、幸いです。
- (8) これも、ご案内が遅れていますが（4月中にホームページに掲載します）、「抜刷レジュメ交換コーナー」を総合受付の横に開設します。自由にご利用下さい。
- (9) 「ゲスト用無線LAN」の運用もする予定ですが、接続情報に関しては、開催当日、総合受付での情報公開になります。「eduroam」も利用可能ですので、できるだけ、eduroamを事前に設定のうえ、ご来会下さいますよう、お願い申し上げます。

以上、箇条書きでたくさんの方のことを書いてしまいましたが、基本的には順調に準備はすすんでおります。本学の都合で、開催が少々暑い時期になってしまいましたが、みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

（第52回大会長：樫田美雄 [摂南大学現代社会学部]）

## 2. 第3回理事会報告

以下の通り、2025年度第3回理事会が開催されました。

日時：2026年3月17日(火)9時～10時30分

会場：ZOOM会議

出席者：美馬会長、清水理事、海老田理事、野島理事、樫田理事、前田理事、細野理事、細田理事、天田理事、蘭監事、事務局 平野(記 国際文献社)

欠席者：松繁理事、黒田監事

### 1) 52回大会の進捗状況について(第52回大会長)

樫田第52回大会長より抄録集は4月末頃に発刊予定であり、チラシ第2弾を同封する予定であることが伝えられた。会場費については半額免除を大学と交渉しており、大幅な赤字は回避できる予定であること、冷暖房費の全額免除申請も行う予定であるとの報告があった。

### 2) 第53回大会の進捗状況について(第53回大会長)

美馬第53回大会長より年度が始まらないと日程等を確定することができないため、分かり次第、進めることが伝えられた。

### 3) 園田賞(学会奨励賞)候補について(研活理事)

前田理事より資料の通り、審査の結果、受賞者候補として田中裕史会員が推薦され、承認された。

### 4) 研究活動委員会報告(研活理事)

前田理事より資料の通り、第52回大会準備状況が報告された。Googleフォームアドオン有料版費用を美馬理事が立て替えているため、支出を承認してほしいとの依頼があり、承認された。資料の通り、2月に関西定例研究会、3月に関東定例研究会を開催したとの報告があった。4月に黒田浩一郎会員の退職記念講演を関西定例研究会として開催することが伝えられた。

### 5) 編集委員会報告(編集理事)

海老田理事より資料の通り、論集36巻2号にエラータ記事の掲載漏れがあり、お詫びの書状を郵送したことが報告された。特集論文の非会員執筆者への謝礼が20,000円、非会員査読者への謝礼が5,000円とすることを編集委員会で確認したことが伝えられた。

### 6) 看護・ケア研究部会報告(細野理事)

細野理事より資料の通り、2025年12月に第3回研究部会例会、3月に関東定例研究会と共催で第4回研究部会例会を開催したとの報告があった。

3月14日に次期役員選挙の開票を行い、上位得票者へ打診を行っていることが伝えられた。

### 7) 渉外・国際交流活動の報告(渉外国際交流理事)

細田理事より3月26日のGEAHSS会議に出席できないため、代理で清水理事が出席予定であることが報告された。秋にアジア太平洋社会学会が開催される予定であることが伝えられた。

### 8) ニュースレター次号の配信について(広報理事)

天田理事より事前にメールで連絡している通り、ニュースレター原稿の締切が4月10日17時までであること、4月20日頃に配信予定であることが伝えられた。

9) 2025年度決算案及び来年度予算案について (総務理事)

清水理事より資料の通り、決算案について通常会員納入率が79%であり、2月に督促請求を行ったこと、理事会や委員会がオンライン開催となっているため交通費が発生していないこと、大会補助費について51回大会が黒字であったことから支出が抑えられていることが説明された。交通費について数年、発生していないことから予算計上するかどうか確認をし、何かあったときのために計上しておいた方が良いとの意見があり、今後も予算計上することとした。

予算案について基本的には前年度同様だが、執筆謝礼・非会員謝礼を追加したこと、契約変更に伴い事務局関連業務費用を増額したこと、選挙を行うことから選挙費用を計上したことが説明された。

研究会・部会活動補助費に医学教育WG 8.3万円を計上しているが、今後の開催予定について確認があった。樫田理事から金子雅彦会員へ確認を行うこととし、予算はそのまま計上することとした。

清水理事より、新ホームページの作成費用についても見積もりが出しだい、予算の支出に追加する予定であることが説明された。

10) 2026年度大会時評議員会・総会の議題と資料の作成について (学会長・総務理事)

清水理事より次回評議員会に諮りたい議題があるか確認がなされ、若手研究者への支援についてのアイデアを確認することとした。

新評議員として追加したい会員がいる場合は後日、メール審議することとなった。

総会議案書については例年通り、作成することが確認された。

11) 入退会者の承認 (総務理事)

清水理事より資料の通り、入会者20名の承認依頼があり、全員承認された。退会1名の報告があった。

12) その他

美馬第53回大会長より年度が始まらないと日程等を確定することができないため、分かり次第、進めることが伝えられた。

清水理事より資料の通り、新ホームページのドメインについての確認依頼があり、学会の略称や日本の学会であることが分かるようなものに定めた。(注:具体的に定めていますが、契約の妨げとならないよう表記を控えています。)

樫田理事より社会学系コンソーシアムについて、単独の学会では解決できない問題を検討してもらえる枠組みがあるのか確認があった。天田理事がコンソーシアム理事として就任していることから天田理事を通じて意見を投げかけることが可能であることが確認された。

野島理事より「若手」の範囲について確認があり、学会として明確に決まっているものは学生会員資格と園田賞選考基準であることの確認がなされた。

13) 次回の理事会日程

次回理事会は大会1日目(6月13日)に対面で開催することが伝えられた。

(清水理事:総務担当)

### 3. 定例研究会の報告 (関東)

関東定例研究会報告 2025年度第5回 (報告)

2025年度第5回 (第2回関東) 定例研究会は、看護・ケア研究部会との共催という形で、2026年3月14日 (土) に日本赤十字看護大学広尾キャンパスで行われました。報告の詳細につきましては、看護・ケア研究部会報告を御覧ください。

(前田理事：研究活動担当)

### 4. 定例研究会の報告・告知 (関西)

研究活動委員会 (関西) では、2026年2月28日午後に、第4回 (261回) (第2回関西) 定例研究会を京都光華女子大学 (当時。現在は京都光華大学) にて、開催した。

テーマを「ケアの対象を考える——血友病周辺女性の経験より」とした上で、以下の3演者が報告を行った。

演者1：木村美也子 (昭和女子大学)

「血友病との出会いと育児——血友病患者との関係性に着目して」

演者2：眞浦有希 (沖縄県立看護大学)

「「血友病」と生きる子どもにわたしが伝えていること——親子のかかわりが育てるセルフケアの力」

演者3：田淵紗也香 (京都光華女子大学)

「血友病周辺女性の体験——「姉」の事例から」

司会は伊藤美樹子 (滋賀医科大学) が行った。

本企画は、第1回関西定例研究会に続いて、2026年6月13-14日に予定されている第52回日本保健医療社会学会大会 (摂南大学大会) のプレ企画として開催された。

対面のみ企画であったが、当事者団体である「ヘモフィリア友の会全国ネットワーク」からも複数名の参加があり、総勢18名で活発に議論を行うことができた。

前半の講演部分に関しては、冒頭に司会の伊藤美樹子より、今回の研究会の背景となっている研究企画に関する概説があり、医療知識に乏しい参会者であっても、討論に参加できるように配慮されていた。

第1報告の木村報告においては、育児にかかわって、多数のインタビュー調査の結果が報告された。子が血友病であることが判明してはじめて自分自身が保因者であったことがわかるケースもあり、「自分が出血傾向をずっと持っていたことが腑に落ちた」という (中途診断的な) 感想などが紹介された。保因者だからといって罪悪感や自責の念にかられる、というような (先行研究にあるような) 感想がなかったケースが興味深いケースとして報告されていた。

第2報告の眞浦報告においては、子供のセルフケアを支える母親のケアプロセスにかんするインタビューが分析・報告された。

たとえば、子が青年期にはいるということはセルフケアに移行していくということだが、そ

のような場合、母親は「任せる」「見守る」「必要時に支える」というかかわりを臨機応変に実行していた。つまり、「移行期の支援は、親が一方向的に退くというより、関わり方を変えながら続いていくもの」であった。他の慢性期疾患にも応用可能な重要な知見の報告であるように思われた。

最後の第3報告の田淵報告においては、血友病患者の女性のきょうだいである「姉」の語りから「血友病周辺女性の体験」の分析がなされた。この「姉」の場合は、子ども時代には、先行研究と同じように、「親からの関心の不足（血友病である弟の方に関心が集まってしまうから）」から寂しさと不満を感じていた。葛藤の相手は、主に母親で、母親は、「姉」に対し、「結婚は避けなさい」とか、結婚しても「妊娠は避けなさい」と主張していた。けれども、結果的に結婚し、生まれた子（男児）は血友病ではなかった。この事態（「姉」家族が血友病を次世代に引き継ぐことがなくなったこと）を受けて、母と「姉」との親子関係は好転した。

「姉」は、息子が家庭を持つことになった時には「あなたは本当にラッキーだったんだよ」と伝えるつもりだと語る一方で、寛容さが社会では不足している、社会は病気を受け入れられるようになってほしい、とも語っていた、という報告がなされた。数十年に及ぶ一つの家族史がリアリティをもって語られて、貴重な報告であった。

後半の討論の時間では、とりわけ第3報告の「ラッキー」という意味付けをどう受け止めるべきか、に関して議論がなされ、「私はそういう感想もありだと思う」（大意）という当事者団体役員の方の発言もあり、多様な意見が交わされ、興味深かった。今回の報告の前提になっている調査自身が当事者団体が深く関わる形で設計されたものであることも紹介され、研究経緯も報告内容も「市民科学」のありうる形として理解できる、第52回大会のプレ研究会として、本研究会は意義深いものになったという発言が、第52回大会長からもなされていた。聴衆は多くはなかったが、得るものの多い、豊かな研究会であったと総括できよう。

### 定例研究会の告知（関西）

2026年度の関西定例研究会は、まず第1回を「医療社会学者・黒田浩一郎さんを囲んで——講演とラウンドテーブル・ディスカッション」と題して、医療社会学研究会主催・日本保健医療社会学会共催の枠組で、下記の通り開催します。二回目以降は現在計画中です。近日中に、ホームページ等で情報公開をいたします。

日時：2026年4月11日（土）14:00～17:30（13:30開場）

会場：クロス・ウェーブ梅田 大研修室（大阪市北区神山町1-12）

第1部 退職記念講演 司会 本郷正武（桃山学院大学）

演者：黒田浩一郎（龍谷大学） 「私の医療社会学のこれまでとこれから」

第2部 ラウンドテーブル・ディスカッション 司会 美馬達哉（立命館大学）

指定討論者：佐藤純一（無所属）・村岡潔（岡山商科大学・京都府立医科大学）・土屋貴志（大阪公立大学）

（樫田理事：研究活動担当）

## 5. 看護・ケア研究部会の報告・告知

### 1) 第4回研究例会の報告

日時：2026年3月14日(土) 13:30～16:30

場所：日本赤十字看護大学広尾キャンパス 208 講義室 (ハイブリッド)

テーマ：「ケアを問いなおす——『介護のドラマツルギー』をめぐって」

講演者：安立 清史 (九州大学名誉教授)

指定討論者：三井さよ (法政大学)・伊藤英樹 (NPO 法人井戸端介護)

当日参加者数：対面参加 24名・オンライン参加 25名 (非会員を含む)

今回の研究会は、看護・ケア部会と日本保健医療社会学会研究活動委員会 (関東) との共催で、2025年5月に開催された日本保健医療社会学会第51回大会「Health and Medical Sociology in Motion: 「越境」をさぐる」および、7月のアフター企画「介護・福祉の可能性——ケアの価値を再考する」を受け、介護についての議論の深まりを目指して企画しました。

九州大学名誉教授の安立清史氏を講演者に迎え、宅老所における日常のケア実践を手がかりに、老いていく人びととそれを支える人びとの関係性を「介護のドラマツルギー」という視点から論じていただきました。講演では、福岡の宅老所「よりあい」や介護実践家・村瀬孝生氏の実践を例に、介護の現場には制度や外側からの説明だけでは捉えきれない出来事が存在することが指摘されました。とりわけ、ケアの実践には「内在」と「ことば」という視点が重要であり、介護者同士が経験を語り合う「朝の申し送り」などの営みが、出来事の意味を更新する場として機能している可能性が示されました。また、介護の現場で語られるエピソードは個々の出来事としての「ドラマ」であると同時に、それを振り返り意味づける「ドラマツルギー」の営みとして理解できることが論じられました。

指定討論の一人目として NPO 法人井戸端介護の伊藤英樹氏が登壇し、介護を決められた規定演技としてではなく、利用者とケアに関わる人びとが同じ舞台に立ち、その場の関係性のなかで共に演技をつくり上げていく営みとして理解する視点を提示していただきました。また、介護においては制度的な管理や責任の論理に回収されるのではなく、「今ここで心地よく生きていくこと」を大切にすることが重要であると述べられました。さらに、村瀬孝生氏の実践を自身の判断軸として宅老所の運営を行ってきた経験を紹介し、介護を管理の枠組みで縛るのではなく、一人ひとりがそれぞれの人生を生きる責任を担う存在として共にあることの重要性が指摘されました。

二人目の指定討論者である法政大学の三井さよ氏からは、人が生きるということの一つの舞台だけではなく複数の舞台を同時に生きることであるという視点が提示されました。そのうえで、介護や看護の実践は明確な正解が示されないまま続けていかなければならない営みであり、実践者には答えのない問いを問い続ける力が求められることが指摘されました。また、セクシュアルハラスメント等倫理的には許容されないとされる行為が、現場の文脈によっては別様の意味を持ちうるというケアの現場の複雑な構造にも言及され、ケア実践における倫理をどのよ

うに理解するのかという問題提起がなされました。

最後の全体討論では、ケアの現場で生じる出来事を実践者と研究者がどのように言葉によって捉え、記述し、共有することができるのかという点を中心に議論が行われました。対面参加の会場では、安立氏、伊藤氏、三井氏の三者が互いの経験や視点を往復させながら語り合う様子が、さながらライブトークのような臨場感を生み出していたことも印象的でした。本企画は、介護やケアの現場において見えにくい出来事や経験に目を向ける視点、そして普遍的な原理ではなく個別具体的な実践のなかに立ち現れる意味を捉えることの学術的意義と実践的意義を改めて考える機会となりました。

## 2) 看護・ケア研究部会総会開催について

看護・ケア研究部会では、活動案・予算案の報告や部会員間の親睦を深めることを目的に、毎年の学会大会期間中に部会総会を開催しております。今年度の部会総会は、下記の通り行います。部会員に限らず、参加は自由ですので、関心のある方は、ご遠慮なくお越し下さい。ご出席をお待ちしております。

日時：2026年6月14日（日）11:30～12:10

場所：摂南大学 寝屋川キャンパス 331 教室

議事：部会長挨拶、2025年度会計報告、活動報告、選挙結果報告、新役員挨拶、2026年度活動予定ほか

(細野理事：研究活動担当)

## 6. 渉外・国際交流活動の報告／告知

2026年2月26日～28日に、シンガポール国立大学において The 29th EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars) が開催されました。この学会は東アジアを中心とする看護研究者が集まり、看護学および保健医療に関する最新の研究成果を共有する国際学術集会です。今回のメインテーマはAIと保健医療で、地域包括ケア、慢性疾患管理、デジタルヘルス、患者中心ケアなど多様なテーマについて活発な議論が行われていました。看護学を中心とした学会ではありませんが、患者の生活や社会関係に注目する研究も多く、保健医療社会学との接点を強く感じました。実際に日本保健医療社会学会からも何人もの会員が参加されていました。看護を中心としたさまざまな専門領域の研究者と交流することで、医療・ケアをめぐる社会的課題について学際的に考える重要性を改めて認識する機会となりました。

(細田理事：国際・渉外担当)

## 7. シンポジウム情報等のメール配信・学会ホームページ掲載希望について

会員や学会外部機関から事務局へお寄せいただく学会外部のシンポジウム等の情報につきましては、会員に関連する情報を選択してニューズレター配信メールやホームページにて記載させていただいております。ただし、メール配信やホームページ更新に対する委託料が発生する

ため、できる限りまとめて行う関係上、ご連絡が開催または申込締切まで1ヵ月を切る場合には配信・掲載が間に合わない場合があります。あしからずご了承ください。

(天田理事：広報担当)

## 8. 編集後記

ニューズレターNo.134では、第52回大会直前のご案内についてお届けしました。プログラム等の情報はホームページにも掲載されておりますので、そちらもご覧ください。開催日程が近づいてきましたので、ご参加予定の方はお早めに事前申し込みや交通・宿の確保をお願いいたします。

なお、日本保健医療社会学会ニューズレターは、No.92からPDFファイルのメールマガジン形式で配信しています。また、学会ホームページ (<https://square.umin.ac.jp/medsocio/>)でも公開していますので、ぜひご参照ください。

(天田理事：広報担当)

発行：日本保健医療社会学会	編集：広報担当（天田城介）
学会事務局：東京都新宿区山吹町 358-5	アカデミーセンター
<a href="mailto:jshms-office@as.bunken.co.jp">jshms-office@as.bunken.co.jp</a>	TEL：03-6824-9375